



『隨行記録
廣池千九郎博士の教え』
井出 大 著 本体1,400円+税

お求めは
巻末の専用ハガキ、
あるいは右のQRコード
(オンラインショップ)から



もつと、幸せになりたい。ただ具体的に何をどうすれば「もつと幸せ」になれるのかと問われると、よく分からない人が多いのではないか。

同じくらいの収入で、健康状態も変わらないのに、不幸に感じる人もいれば、幸せいっぱいの人もいます。望んだ仕事や人間関係を手に入れることができたとしても、「ないもの」を数え続ける限り、次なる不平不満が膨らんでいくことでしょう。

「花咲じいさん」という童話をご記憶でしょうか。ある山里で、傷ついた子犬を見つけ、わが子同然に育て始めた老夫婦。あるとき、「ここ掘れワンワン」と犬の鳴く場所を掘り返したところ、大判小判を手にします。それを妬んだ隣の老夫婦は、無理やり犬を連れ去り財宝を探させます。が、堀つても堀つてもガラクタばかり。犬は殺され、悲しんだ飼い主夫婦がお墓をつくったところ、傍らに植えた木が一夜で大木に成長します。その木で臼を作つて餅をつくと、今度は宝物があふれ出てきました。それを妬んだ隣の夫婦が臼を奪つて餅をつくものの、汚物しか出ず、

道とは、日々よい心づかいと行いを積み重ね、「品性」を高める生き方にこそある、ということです。

では日常生活の中で、具体的にどのような努力や工夫をすれば、品性を高めていけるのでしょうか。晩年の廣池千九郎に随行した井出大氏は、昭和十年に開設された学校「道徳科学専攻塾」(麗澤大学の前身)で、廣池がどのような教育を重視したかについて、こう語っています。

「人間は『習い性となる』という性格を持つています。よいことを考へていると、だんだんと細胞がよいことを考へるようになっていくような習性を持つていて、が人間の特性です。これを先生は大切にされています。

たとえば、お風呂が汚れていると、後から入つてくる人が不愉快であろう。気持ちよく入つていただきたい、という気持ちを込めてごみを掬い、浮いた髪の毛を掬いなさい、そのごみを掬つたあなたが救われるのですよ、とおっしゃつていませんのうですが、このことが少しも分からぬのです。ごみを拾うことが一体何になるのだろう、トイレの汚れを掃除することが一体何になるのだろうと思つてしまつ

もつと、幸せになりたい。ただ具体的に何をどうすれば「もつと幸せ」になれるのかと問われると、よく分からない人が多いのではないか。

同じ「行い」をしているのに、どんどん幸せになる夫婦と、不幸が重なる隣の夫婦。明暗を分けた二組の「違ひ」はどこにあつたのでしょうか。

それはきっと「心の働く方」の違いで

もつと、幸せになりたい。ただ具体的に何をどうすれば「もつと幸せ」になれるのかと問われると、よく分からない人が多いのではないか。

同じ「行い」をしていても、正反対の結果にならないのに、不幸に感じる人もいれば、幸せいっぱいの人もいます。望んだ仕事や人間関係を手に入れることができたとしても、「ないもの」を数え続ける限り、次なる不平不満が膨らんでいくことでしょう。

「花咲じいさん」という童話をご記憶でしょうか。ある山里で、傷ついた子犬を見つけ、わが子同然に育て始めた老夫婦。あるとき、「ここ掘れワンワン」と犬の鳴く場所を掘り返したところ、大判小判を手にします。それを妬んだ隣の老夫婦は、無理やり犬を連れ去り財宝を探させますが、堀つても堀つてもガラクタばかり。犬は殺され、悲しんだ飼い主夫婦がお墓をつくったところ、傍らに植えた木が一夜で大木に成長します。その木で臼を作つて餅をつくと、今度は宝物があふれ出てきました。それを妬んだ隣の夫婦が臼を奪つて餅をつくものの、汚物しか出ず、

もつと、幸せになりたい。ただ具体的に何をどうすれば「もつと幸せ」になれるのかと問われると、よく分からない人が多いのではないか。

同じ「行い」をしていても、正反対の結果にならないのに、不幸に感じる人もいれば、幸せいっぱいの人もいます。望んだ仕事や人間関係を手に入れることができたとしても、「ないもの」を数え続ける限り、次なる不平不満が膨らんでいくことでしょう。

「花咲じいさん」という童話をご記憶でしょうか。ある山里で、傷ついた子犬を見つけ、わが子同然に育て始めた老夫婦。あるとき、「ここ掘れワンワン」と犬の鳴く場所を掘り返したところ、大判小判を手にします。それを妬んだ隣の老夫婦は、無理やり犬を連れ去り財宝を探させますが、堀つても堀つてもガラクタばかり。犬は殺され、悲しんだ飼い主夫婦がお墓をつくったところ、傍らに植えた木が一夜で大木に成長します。その木で臼を作つて餅をつくと、今度は宝物があふれ出てきました。それを妬んだ隣の夫婦が臼を奪つて餅をつくものの、汚物しか出ず、

もつと、幸せになりたい。ただ具体的に何をどうすれば「もつと幸せ」になれるのかと問われると、よく分からない人が多いのではないか。

同じ「行い」をしていても、正反対の結果にならないのに、不幸に感じる人もいれば、幸せいっぱいの人もいます。望んだ仕事や人間関係を手に入れことができたとしても、「ないもの」を数え続ける限り、次なる不平不満が膨らんでいくことでしょう。

「花咲じいさん」という童話をご記憶でしょうか。ある山里で、傷ついた子犬を見つけ、わが子同然に育て始めた老夫婦。あるとき、「ここ掘れワンワン」と犬の鳴く場所を掘り返したところ、大判小判を手にします。それを妬んだ隣の老夫婦は、無理やり犬を連れ去り財宝を探させますが、堀つても堀つてもガラクタばかり。犬は殺され、悲しんだ飼い主夫婦がお墓をつくったところ、傍らに植えた木が一夜で大木に成長します。その木で臼を作つて餅をつくと、今度は宝物があふれ出てきました。それを妬んだ隣の夫婦が臼を奪つて餅をつくものの、汚物しか出ず、

(本誌)